

文芸

俳句

ゆきあいの風に従ふ木の実かな
伊藤 敬子
数珠玉の縮緬お手玉母戯む
今関満喜子

秋晴るるすべての五感楽しめり
魚地 照子
ごつごつの手に新米の光りけり
宇野とし子

金風の雲を纏える富士の山
鹿子木小夜子
箱根路の白露の中に湯けむりか
加瀬 俊昭

罪なきに秋刀魚は火焙り人の性
川島 通則
山の里の風の祭や梯子獅子
向後 寛

娘がくれし鳥羽の夏山海の藍
越川せつ子
人生は苦楽有りとも菊日和
小松 藤男

秋彼岸故人似の顔酒を酌む
佐瀬 輝夫
冬瓜の重さ戸惑う齡かな
土屋美枝子

地獄絵に人の性見ゆ菊の寺
土屋 義昭
湯に放つひろがる黄色菊贈
西崎さち子

小鳥来る精米小屋の日だまりに
早川 勇
名月やその後知りたきかぐや姫
藤田 雅夫

短歌

秋雨にぬれる木の葉を見つめつつ
一人静かにトワエモア聴く
越川 義則

食べごろの無花果雨にみな割れて
甘き香りに虫ごとひかふ
内藤 くに

……
彼岸花今年も咲きて庭隅は
にはか明るき季となりたり
西山満里子

心地よく晴れた彼岸のただ中を
つくつく法師鳴くはさみしき
押尾 輝子

さ流れに傾き咲けるトレニアの
落花の幾つ淀に浮かぶ
芹川 初子

旧栃木役場庁舎の時計台
大正時代のおもかげ遺す
斉藤 博

日本は難民認定少なしと
講師語るを寂しく聞きぬ
田崎 尚美

刈りし田に何啄むか白鷺を
見ながら吾も畦道歩く
鈴木まさ子

一年生の玉入れ競技に応援の
声一段と大きくなりぬ
浅野 榮子

晩稲の田残れる一枚穂は垂れて
夕日の中に刈取りを待つ
加瀬 弘子

両手あげ身を反らしみる蠅螂の
天与の構へ愛らしく見る
水須 俊

テレビ消し寝床につけば秋の虫
大合唱が聞こえてきたり
椎名美枝子

彼は誰れのことおいなれば植込みの
茂みにすたく青松虫は
木村 香文

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

11月 展示なし
12月 カトレア会

◎文化会館ロビー展

11月 展示なし
12月 展示なし

◎銚子商工信用組合展

11月 展示なし
12月 アート押し花クラブ

◎カスミ展示コーナー

11月 展示なし
12月 横芝写真クラブ

随想誌「地下水」の原稿を募集

内容 日常生活での体験や感想・随想・論説・解説等で題材は自由

規定 文章：1行24文字×23行

原則として口語体とし、常用漢字・現代仮名遣い

用紙：所定の原稿用紙またはパソコン印刷

用筆：黒または青のボールペンか万年筆

応募期限 12月14日(金)

※匿名はお断りします。

※寄稿いただいた原稿は、原則返却しません。

既に発表したものはお断りします。また、著作権等の侵害にならないようご注意ください。

応問 社会文化課生涯学習班

☎84-1358

